

9. 庁舎等／その他の施設

①施設の防災面の視点

水防センターは災害時に備え、資機材を備蓄する重要な施設です。

②マネジメント基本方針等で示された課題

(※数値等は個別施設計画策定時【R2.12】のものであり、その後変更となっている場合があります。)

(1) エコドーム

◆施設運営について

回収量(施設利用者)は微増ですが、廃棄物の減量化施策一翼を担っているといます。

また、今後支出が見込まれる施設改修費を除けば、施設運営費は売り払い代金収入で賄えています。現段階では市の支出は少ない施設ですが、今後も現状の施設運営が継続可能か、留意が必要です。

(2) 水防センター

◆点検等で適切に保全

当該施設は常時の利用はありませんが、定期的な施設点検により保全を行っていくことが重要です(施設内の設備、備品等を含む)。

(3) 可児駅東西自由通路

◆定期的な点検による保全

自由通路は、可児駅利用者だけでなく周辺の住民の通行もあり、通行不能となれば市民生活に影響が出ることが想定されることから、定期的な施設点検により保全を行っていくことが重要です。

③施設の今後の方向性

(1) エコドーム

市民アンケートでは、民間施設を利用するという回答があったように、近年では民間施設でもリサイクル資源の回収を行っている事業者がありますが、エコドームはごみの減量と資源化を推進する上で一定の役割を担っていると考えられます。したがって、当面は施設を存続させ適切な維持管理を図ります。

(2) 水防センター

地域防災の備えとして、災害発生時に必要な緊急資材を保管・備蓄している施設です。適切な維持管理を図ります。

(3) 可児駅東西自由通路

日常的に市民が通行・往来する施設です。適切な維持管理を図ります。

④ライフサイクルコスト削減の目標

(1) 施設の長寿命化検討

長寿命化により令和 33 年以降の建替えとなる施設はありません。

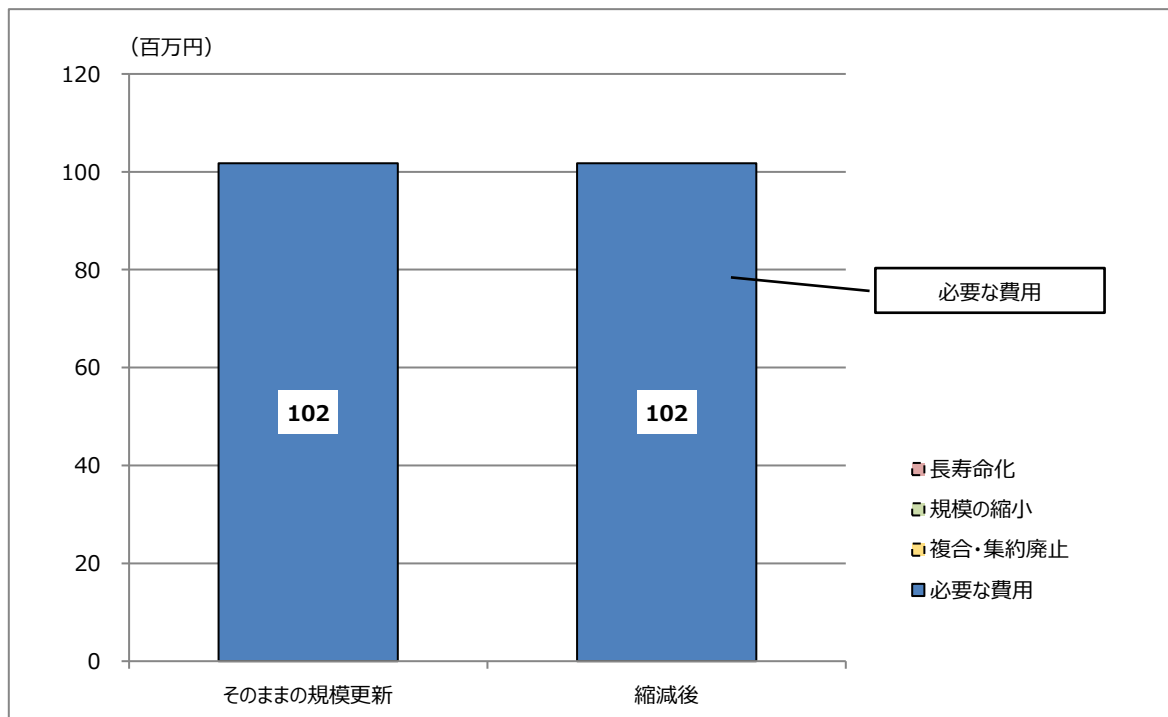
(2) 施設規模の縮小検討

令和 32 年までに対象となる施設はありません。

(3) 複合・集約廃止の検討

検討対象となる施設はありません。

【図 2-9】 削減イメージ



◆ライフサイクルコストの削減の対象とならない施設（平成3年以降建築）

エコドーム、水防センター、可児駅東西自由通路